

多摩支部会報

明治神宮野球大会優勝特別号

平成28年11月21日 発行

明治大学校友会
東京都多摩支部

支部長 西山 強

広報委 飯田光宏



明治大学 広報



(C) 明大スポーツ

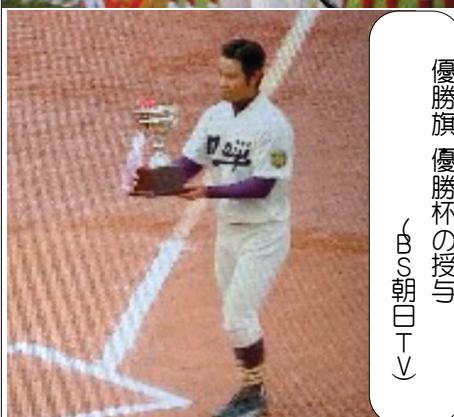
5年ぶりの明治神宮野球大会優勝



決勝のマウンドを託された柳裕也主将(政治経済学部4年)は初回、先頭打者に二塁打を許すと、犠打を挟んで連打を浴び、2点を先制されてしまいます。その後、両チームともチャンスを作りながら得点を挙げられないまま迎えた五回、明大はヒットとエラーで出た走者を三塁に進めて竹村春樹選手(政治経済学部3年)の適時打で1点を返します。さらに2者続けての四球で二死満塁のチャンスから萩原英之選手(経営学部4年)、逢澤峻介選手(文学部2年)の連打で3点を追加し、逆転に成功しました。

五回からマウンドに立った星知弥投手(政治経済学部4年)は、5回を被安打2、奪三振5で無得点に抑える完璧なリリーフ。八回には自らのソロ本塁打で追加点を挙げるなど、投打にわたる活躍を見せました。九回に最速152kmの直球を披露した星投手は、最後の打者を空振り三振に仕留めゲームセット。明治大が5-2で勝利し、5年ぶり6度目となる秋の日本一の座に輝きました。

(明治大学 広報 転載)



優勝旗 優勝杯の授与
(BS 朝日TV)

紫紺ネット会員募集中

紫紺NETホームページアドレス:
<https://sns.meiji-shikon.net/>

やっぱり明治は強かった。

関東5連盟第1代表の桜美林大を5ー2で下し、大会史上最多6度目の頂点に輝いた。先発の柳裕也主将(政経4=横浜)は4回2失点。0ー2で迎えた5回、竹村春樹内野手(政経3=浦和学院)の中前適時打で1点差に迫ると、萩原英之外野手(宮4=九州学院)の右前適時打で勝ち越しに成功。集中打でこの回4得点を挙げると、8回に星知弥投手(政経4=宇都宮工)のソロ本塁打で突き放した。5回から救援した星がリードを守り切り試合終了。5年ぶりの日本一で「柳メイジ」を締めくくった。(明大スポーツHP転載)



(C) 明大スポーツ



グーグル

(ホームランは)打った瞬間はちょっと低いかなと思いました。あまり打った実感はないです。狙ってはいなくて、後ろにつなごうという意識で初球から振りにいった結果です。(試合での本塁打は)人生で初めてです。入って良かったなと思います。その1点で自分も楽になって、2点と3点では投げていて全然違うので。(投球は)柳を絶対に日本一にさせてあげたいという気持ちでマウンドにあがりました。星投手談(明大スポーツ)



善波 監督

(山崎福也がいても成し遂げられなかった日本一)この4年生は1年、2年の時ここで亜細亞、駒沢両チームに決勝で負けているので、その思いは相当強かったと思いますし選手のミーティングなんかでもそういう言葉がだいぶ聞こえてくるような感じだったので。(亜細亞と駒沢を抜いて単独最多の優勝)それは先輩方の積み重ねなんで、でもそれがこうやってつなげられているというのは昔も今も選手が必死になってやっている証だと思います」

(明大スポーツ) 写真はBS朝日TV



グーグル

後輩たちにもいいものを残せましたし、同期には恵まれたなと思います。(試合後の涙は)うれしい気持ちとやっぱりこのユニホームにたくさん成長させてもらいましたし、このユニホームを着てやるのも最後だなと思うと、ちょっと寂しい気持ちになりました。この仲間たちと過ごしてきた日々が本当に充実したものだったので、色々な感情が込み上がって涙が出てきました。勝って泣けるというのは本当に幸せなことだと思います。

柳投手談(明大スポーツ)



明大スポーツ

勝ち越しの適時打を放った萩原
(打った球は)シンカーです。狙っていました。無心で打てました。(ヒットを打ってすぐ)こみあげるものがありました。チームに流れを持ってこられたと思います。どの球を狙うのかといったら、直球か勝負球のシンカー。打席の中で感じる物があった、自然とシンカーに反応できました。(打席に入る前柳に)「自信持つていけ！」と声を掛けられました。おかげで士気が上がりました。(4年間で成長したところは)精神面です。野球への取り組み方や意識が変わりました。(明大スポーツ)

編集後書 やってくれましたね。5年ぶりの大学野球日本一！柳投手をはじめ特に4年生には本当に思い出に残るシーズンであったとおもいます、おめでとう！優勝パレードは何時になるのか楽しみです。ラグビーは今日(20日)、帝京大学に大差で破れ、早稲田戦には是非とも勝利し、日本ラグビーフットボール選手権大会に向けて弾みをつけてほしいものです。多摩支部では大応援団を組んで行きます(募集は締切ました)。

広報委員会